セミの兄弟

高野敦志

はしがき
セミの兄弟

目次

はしがき
セミの兄弟

はしがき

　我が家の蜜み柑かんの木に、セミの抜け殻を見つけました。一つの葉に二匹止まったまま、羽化していたのです。眺めていると、一篇の詩が生まれました。そのさまを描いた絵を表紙にしました。

セミの兄弟

僕らは七年間

暗い穴蔵で暮らしてきた

父や母が誰だかも分からない

兄弟がいたというのも

先ほど知ったばかりだ

どんな姿をしているかというのも

お前の顔を見てはじめて知ったんだ

同じ木によじ登り

同じ葉っぱの上に乗ったとき

体の中から盛り上がる力を感じた

体がはじけそうになり

自分が死んでしまうと思ったとき

羽を持った新しい体が出てきた

僕らは十日ほどの短い青春を味わうんだ

彼女と巡り会えるか

鳥に食べられてしまうかも分からない

知り合ったお前とも

二度と出会うことはないだろう

残された時間に大空を飛び回り

けたたましい声で鳴き

若さを満喫して死ぬんだ

これほど潔い生き方があるだろうか